

2 日目

第4学年2組 社会科学習指導案

平成28年2月4日（木）公開授業Ⅰ
 平成28年2月5日（金）公開授業Ⅱ
 会場 2階-④
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
 教諭 八幡 昌樹

1 単元名 ごみってどうなる？ごみをどうする？ - わたしたちの生活とごみ -

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容（3）に準拠して設定したものである。本単元の目標は次のとおりである。

- ・廃棄物処理の対策や事業は、計画的、衛生的に行われていることを理解できる。
- ・廃棄物処理の対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えることができる。

廃棄物処理の対策や事業として、二つの事例を取り上げる。一つは、新潟市の新ごみ減量制度。もう一つは、学校のすぐ近くにある旭水町内会のごみ収集の取組である。

新潟市では、平成20年6月から新ごみ減量制度をスタートさせた。これまでごみとして出されてきたものの中から資源を分別することで、最終的な焼却・埋め立てされるごみの量の削減し、市全体を衛生的な環境にすることを目的としている。これは、家庭ごみの10種13分別、有料指定袋制を導入し、ごみの3R（リユース、リデュース、リサイクル）を推進するものである。この制度の導入前後で、家庭ごみの排出量は約34%減少した。さらに、ごみ処理にかかる費用についても削減されており、この制度の導入によって大きな成果が上がっている。

学校の近くにある旭水町内会では、役員を中心に「クリーンにいがた推進員」を選出し、ごみステーションの管理やごみの分別の指導などを行っている。また、住民同士でごみ収集の籠を交代で動かす取組を行っている班がある。これは、道路が狭く固定式のごみステーションを設置できない問題を克服するために、住民の協議によって始まったものである。住民同士が自分たちで決めたことをお互いに協力して行うことが、住みよいまちにつながっている。

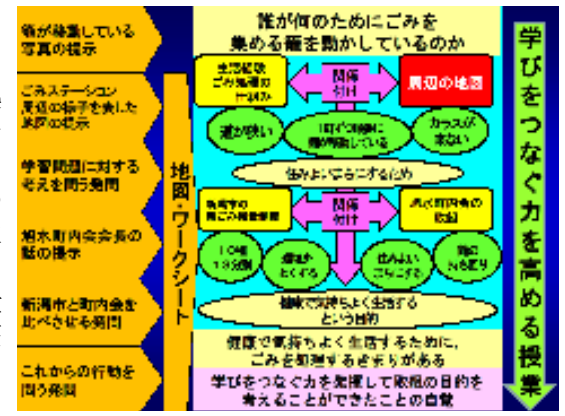
これらの事例を取り上げることによって、健康で気持ちよく生活するという廃棄物処理の対策や事業の目的のために、市全体でも身近な地域である町内会でも同じ目的のためにきまりがあるのとらえることができる。さらに、きまりがあることによる成果、成果につながる地域の人々の協力についても考えることができる。この学習を通して、きまりを守ることが地域社会への協力につながるものだと考えられるようになってくるところに価値がある。私は、子どもが地域社会における廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえ、よりよい地域社会にするために自分もきまりを守って協力しようとする姿を目指す。

3 本単元で目指す姿

廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえ、地域社会の一員としての自覚をもつ子ども
 「新潟市は、ごみを減らし資源物を増やして、環境をよくするために、新しいきまりをつくった。旭水町内会では、きれいに正しくごみを集めて住みよい生活ができるように、ごみを集める籠を交代で回して協力している。どちらにも健康で気持ちよく生活するためという目的があり、きまりを守ることが協力につながる。自分もよりよい地域社会にするために、ごみを捨てるときのきまりを守って協力しよう」

- (1) 「中核的な学習内容」
 廃棄物処理の対策や事業の目的

- (2) 「学びをつなぐ力」
 - ① 関係付けるすべを用いて、生活経験や廃棄物処理の仕組みについての知識を基に、旭水町内会の取組の内容に関する情報を収集する力
 - ② 関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を総合して、旭水町内会の取組の目的を考える力
 - ③ 関係付けるすべを用いて、新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組との共通点を基に、廃棄物処理の対策や事業の目的を考える力



(3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚

生活経験や廃棄物処理の仕組み、新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組についての情報を関係付けて収集したことや、情報を総合して考えたことで、廃棄物処理の対策や事業の目的を考えることができたという自覚

4 指導の構想

子どもはこれまでに、ごみが種類毎に計画的に集められ、衛生的に処理されているという廃棄物処理の仕組みを理解している。また、新潟市が環境をよくするために新ごみ減量制度を導入し、ごみを減らして資源物を増やすことに成果を上げていることを理解している。しかし、身近な地域社会の廃棄物処理について、どのような取組が行われているか、自分がどうかかわるかという視点からは考えてはいない（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1（1日目）

実際にごみ収集に使われている籠とその籠が日によって移動している写真を連続で提示し、疑問に思うことを問う。

旭水町内会による取組の目的について問いをもたせるための働き掛けである。まず、これから学習する物に実感をもたせるため、折りたたみ式のごみ収集の籠を提示し、実際に触れさせる。子どもは、籠を持ったり動かしたりして、その重さを実感する。そして、そのごみ収集の籠を置いてある場所が、日によって異なる写真を連続で提示する。これまでの生活経験から、ごみステーションは1か所に固定されていると思っている子どもは、ごみ収集の籠が動いていることに気付き、「なぜごみステーションの籠が1日ごとに遠くへ行くのか」「誰がごみステーションの籠を動かしているのか」「いつ動かしたのか」と疑問に思う。子どもの疑問から学習問題を設定するために、みんなで考えたいことを問うて、子どもの疑問を焦点化する。子どもは、「いつ、誰が、何のためにごみステーションの籠を動かしているのか」と取組の目的を追究する学習問題を設定する。その後、学習問題に対して予想をさせる。子どもは生活経験を想起して、「クリーンにいがた推進員がごみを出しやすいうように」「車がじゃまになるから」「カラスが来るから」「遠かったり近かったりするとずるいから平等にする」と考える。そして、予想を確かなものにするために資料がほしくなる。

働き掛け2（1日目）

ごみステーション周辺の様子を表した地図（「対象」）を提示する。

取組の内容に関する情報を収集させるための働き掛けである。資料がほしくなった子どもに、**ごみステーション周辺の様子を表した地図（「対象」）**を提示する。この地図は、取り上げた事例の班がある場所を中心に拡大した住宅地図で、ごみステーションや周辺道路の写真、移動した籠の場所と日付を貼付したものである。これを班毎に配付する。子どもは、関係付けるすべを用いて、ごみステーションの籠が1軒ずつ順番に移動している、道路の幅が狭い、カラスが来ないように黄色い網がある等の情報を収集する。その後、他の班が分かった情報を共有させるために、自由に動いて見て回らせる。子どもは、自分と同じものや違うものがあることに気付き、納得したり新たな発見をしたりする。



～地図（「対象」）～

働き掛け3（1日目）

学習問題に対する考えを問い、交流させる。

取組の目的について考えさせる働き掛けである。地図から様々な情報を収集した子どもに、学習問題に対する考えを問う。子どもは、関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる情報を総合して、取組の目的について班で考えをまとめる。その後、学級全体の仮説として考えを一つにまとめさせる。このとき発表された考えで、同じような様子を表している言葉を丸で囲んだり線で結んだりしながら板書する。子どもは、これまでに資料から分かったことを基に、学級全体として「地域の住民が平等に出せるように朝早く出している」と仮説をまとめる。

しかし、子どもは、地図（「対象」）から収集した情報だけでは学習問題について、まだはっきり分かっておらず、仮説についての根拠が不十分だからもう少し資料がほしいと感じている。そこで次のように働き掛ける。

働き掛け4（2日目）

予想を確かめる資料を提示し、改めて学習問題に対する考えを問う。

自分たちが考えた仮説を見直させるための働き掛けである。仮説をはっきりさせるために資料がほしいと考えている子どもに、最初の予想や現時点での疑問の解決につながる資料を提示する。提示する資料は、「取り上げた事例に該当する地区」「道路の幅に着目させる写真」「カラス対策の有無が分かる写真」「家庭ごみカレンダー」を地図にまとめたものである。子どもは提示された資料を調べることによって、「1日ずつ交代で回している」「カラスが来ないように黄色い網をしている」「道の幅が広いところは歩道に籠がある」といった情報を収集する。改めて学習問題に対する自分の考えを問う。子どもは、関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる情報を総合して、取組の目的について自分の考えをまとめる。

働き掛け5（2日目）

旭水町内会の会長を招き、取組の目的や様子、住民の思いを話していただく。

学習問題に対する考えを検証させるための働き掛けである。学習問題に対する考えをまとめ、本当の目的を確かめたくなくなった子どもに、旭水町内会会長の青木さんと出会わせる。そして、取組の目的や様子、住民の思いを話していただく。その話は、「きっかけは道路が狭くて、ごみステーションを設置できなかったことだ。近所の人で話し合って1日ずつ交代で動かすことに決めた。やってみると、違反ごみが少なくなるといったいいことがあった。協力して自分たちのまちが住みよくなっている」という内容である。子どもは、青木さんの話を聞き、自分たちが考えた仮説が正しいか検証するために必要な情報を取り出して確かめる。その中で新たに、住民同士が決めたことを守り、協力して住みよいまちにしているという事実気付く。そして、学習問題の答えを問う。子どもは仮説と新たに分かった情報をつなげて取組の目的をとらえる。

働き掛け6（2日目）

新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組を比較させ、ワークシートにまとめさせる。

廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえさせるための働き掛けである。旭水町内会の取組の目的をとらえた子どもは「住みよいまちにするという目的のために取組を行っている」ところが、新潟市の新ごみ減量制度と似ていると気付き始める。そこで、新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組の二つの事例について、その内容と目的を比較させる。このとき班毎にワークシートを配付して、観点毎にまとめさせる。ここでのワークシートは、内容と目的という観点を示し比較することを促すものである。子どもは、これまでの学習を振り返って考えを交流させながら、内容と目的を記述していく。そして、二つを比べて気付いたことを問う。子どもは、どちらも「健康で気持ちよく生活するためにきまりがある」という目的が共通していることに気付き、廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえる。

	新潟市	旭水町内会
内容		
目的		

働き掛け7（2日目）

「これまでの学習を生かすには、これからどうするか」とこれからの行動を問う。

地域社会の一員としての自覚をもたせるための働き掛けである。目的が共通しているにとらえた子どもに、「これまでの学習を生かすには、これからどうするか」と問う。子どもはここまでの学習から、新潟市全体でも身近な町内会でも健康で気持ちよく生活するための対策や事業があることをとらえているため、自分もごみを分別したい、ごみの出し方を守りたい等、きまりを守って協力しようとする前向きに取り組もうとする気持ちを表出する。それが、よりよい地域社会にするために自分も協力しようと考え、**地域社会の一員としての自覚をもつ子ども**の姿である。

また、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるために、学習の振り返りを書かせる。このとき、振り返りの観点として「どんな考え方をしたら、何が分かったのか」を書くように指導する。子どもは、「学びをつなぐ力」を発揮して学習したことで、よりよい地域社会にするために協力しようと考えられたことを自覚する。

5 指導計画 全14時間（42Q）

別紙「単元カード」参照

6 本時の構想<第2日目> 14/14時間 (45分授業)

- (1) ねらい
関係付けるすべを用いて、新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組の比較から、廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえることで、地域社会の一員としての自覚をもつことができる。
- (2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
<p>4 仮説を見直し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日朝早く籠を出している」という考えにまとめた。 ・はつきりしないこともあったから、もう少し資料がほしい。 ・1日ずつ交代で回している。 ・カラスが来ないように黄色い網をしている。 ・道の幅が広いところは歩道に籠がある。 ・道の幅が狭くて歩道がないから動かしているのではないか。 	<p>○説明「昨日はみんなの考えをまとめたけど、もう少し資料がほしいという人もいましたね。」</p> <p>○指示「みんなの予想や疑問につながる資料です。分かったことを書き込みましょう。」【働き掛け4】</p> <p>※1枚ずつ資料を配付し1人で作業させる。</p> <p>○指示「分かったことを発表しましょう。」</p> <p>○発問「学習問題に対するあなたの考えはどうなりますか？」</p>
<p>5 ゲストティーチャーの話を聞いて、学習問題に対する自分の考えが正しいかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の人交代でゴミの籠を家の前に置いて、ゴミを出せるようにすることに決めた。 ・ゴミを出す人がしつかりしないと、ゴミを集める籠がある家の人困ってしまう。 ・この取組をしている人たちは、みんなが当集り前のようにやっていた、このごみ集ため方になってから、きれいになったと感じている。 ・自分たちが決めたことを守って、住みよくすることが大切だと考えている。 ・みんながお互いに協力しないと、ゴミを出せない、きれいにならない。 <p>◎ 旭水町内会では、きれいに正しくゴミを集めて住みよい生活ができるように、ゴミを集める籠を交代で回すことに決め、協力している。</p>	<p>○説明「学習問題に対する考えが正しいかどうか確かめるために、旭水町内会の青木会長に来てもらいました。」</p> <p>○指示「みんなで考えたことを伝えて確かめましょう。」【働き掛け5】</p> <p>※子どもに質問に答えてもらう形で、ゲストティーチャーの話を聞かせる。</p> <p>※話の内容をキーワードとなる言葉を中心に、整理しなご板書にまとめる。</p> <p>※「ゲストティーチャーの話の内容」「きんごは道が狭くて、ごみステーションで設置できなかった。話合って1日ずつ交代で動かすことに決めた。違反ごみが少なくなった。協力して自分たちのまちが住みよくなっている」</p> <p>○指示「学習問題の答えとして、分かったことを書き込みましょう。」</p> <p>※自分の考えをノートに記述させる。</p>
<p>5 新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組を比べる。廃棄物処理の対策や事業の目的を新と新きまりをつくらせて、ごみを減らして資源を増やせることができた。そして、環境をよく増やせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭水町内会では、道の幅が狭くてごみステーションが設置できなかったから、ごみ収集の籠を交代で回している。 ・新潟市も旭水町内会もきまりをつくったり、住む人が協力したりして、よい結果が出たところが似ている。 ・健康で気持ちのよい生活をするためという目的が共通点になる。 <p>◎ 新潟市の制度も旭水町内会の取組もみんなが健康で気持ちよく生活できるようにするがためにきまりがあるところが同じだ。</p> <p>☆つなぐ力③</p>	<p>○発問「これまでの学習のまとめとして、新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組を比べてみましょう。」【働き掛け5】</p> <p>※班毎にワークシートを配付し、観点毎にまとめさせる。</p> <p>○発問「内容と目的をまとめて、気が付いたことを書き込みましょう。」</p> <p>○指示「班でまとめた考えを発表しましょう。」</p> <p>○説明「どちらも健康で気持ちのよい生活につながるところが同じだと考えているのですね。」</p>
<p>6 これからの自分の生活について考え、よりよい地域社会にするために協力しようと考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分もよりよい地域社会にするためにゴミを捨てるときのきまりを守って協力しよう。 ・資料から分かったことをつなげて考えたら、なぜごみ収集の籠を動かしているのか、自分たちに協力している自分たち分かった。 	<p>○発問「これまでの学習を生かすために、これからどうしていきたいですか？」【働き掛け6】</p> <p>※自分の考えをノートに記述させる。</p> <p>○発問「最後に、どんな考え方をしたら、何が分かりましたか？」</p>

(3) 評価

新潟市の新ごみ減量制度と旭水町内会の取組の共通点を考えることで、廃棄物処理の対策や事業の目的をとらえ、よりよい地域社会に協力しようと考えることができたかを、ノートの記述や発言から評価する。